

茨城県水戸地区における 臓器移植や慢性腎臓病に関する意識調査結果

平成27年3月
公益財団法人 いばらき腎臓財団

調査方法と対象者

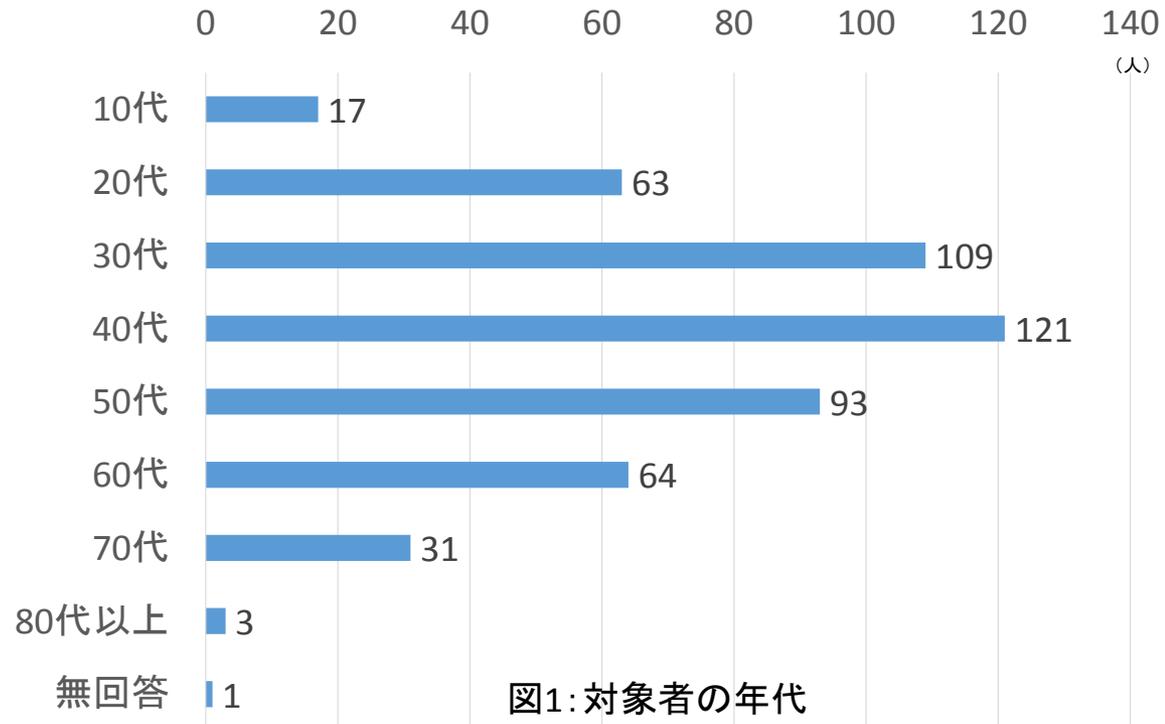
1. 2014年10月水戸内原イオンショッピングセンターで開催された「くすり展」来場者に無記名自記式アンケートを実施

2. 対象者502人

男性152人30.3%、女性349人69.5%、不明1人0.2%

※回答に欠損があった場合も集計に含んだ

3. 対象者の年代は図1の通り



対象者の居住地

居住地は、水戸市が160人(31.9%)、ひたちなか市60人(12%)、笠間市42人(8.4%)であった。その他には、日立市38人(7.5%)、北茨城市28人(5.6%)であった。

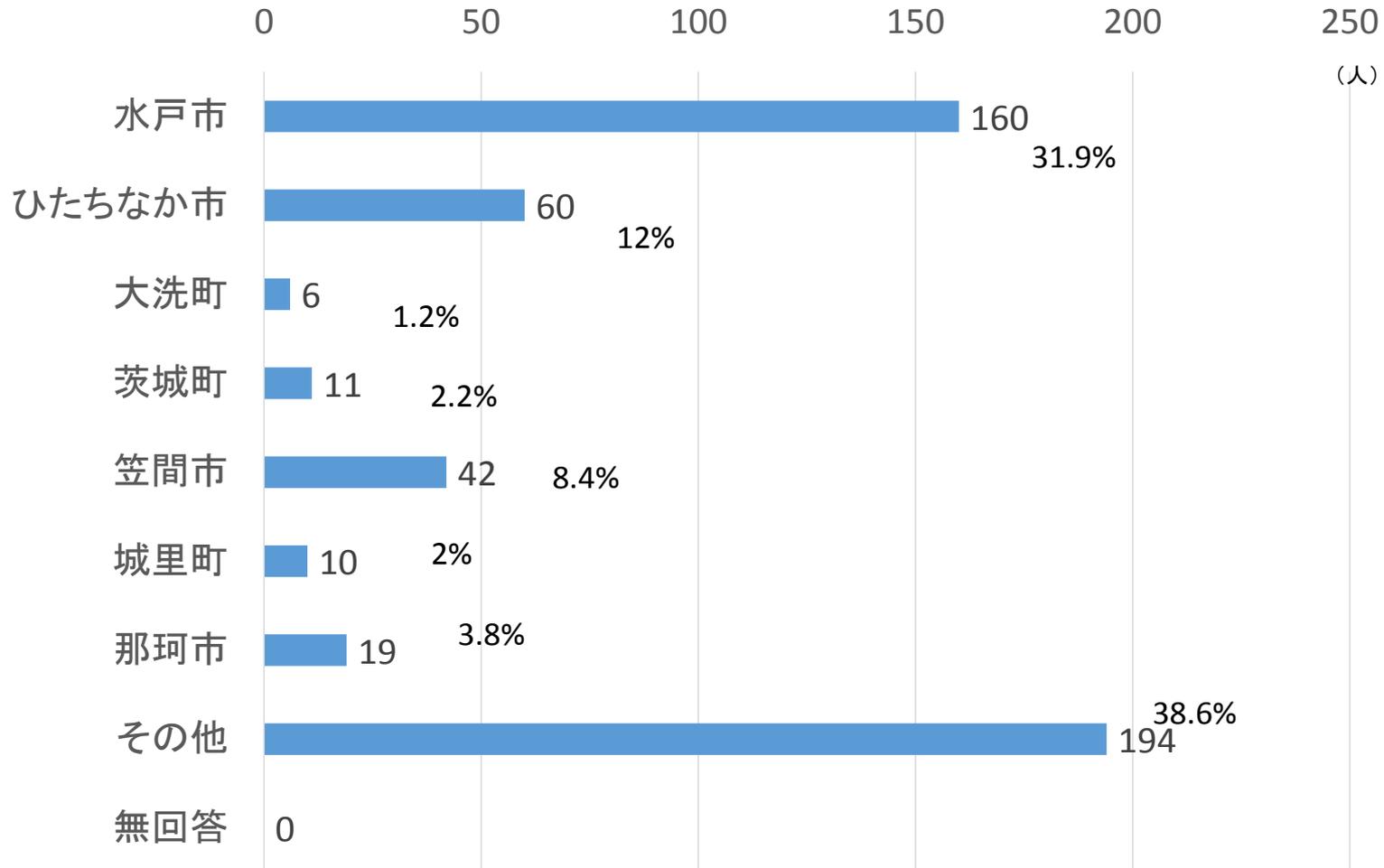


図2: 対象者の居住地

臓器移植への関心

臓器移植に関心があると回答した人は294人(58%)であった。
 また、60歳代以上がその他の年代に比較して「関心がある」と回答した割合が有意($p < 0.05$)に高く、30歳代以下で有意に低かった。

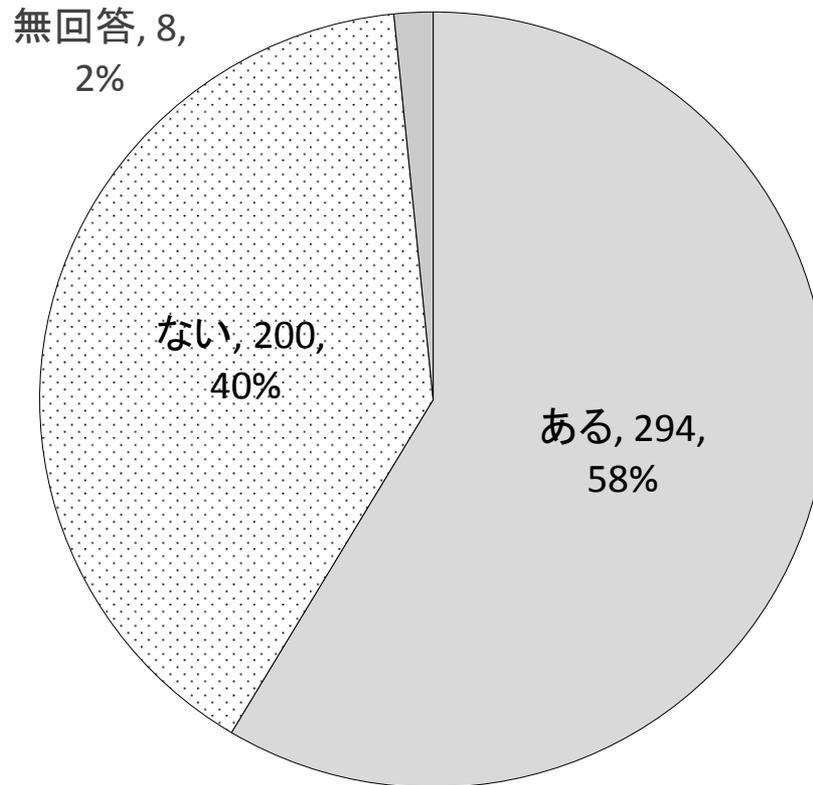


図3: 臓器移植への関心

参考: 平成25年内閣府調査(n=1855)では57.8%、平成22年岡山県調査結果(n=10,366)では64.2%が関心があると回答。

臓器移植への関心を持った理由

臓器移植に関心を持った理由は以下図4の通りであった。また、60歳代以上は「新聞・雑誌・テレビ・ラジオで話題になっているから」、30歳代以下は、「職場や学校で話題になった」「運転免許証に表示欄があった」と回答している割合が高かった。

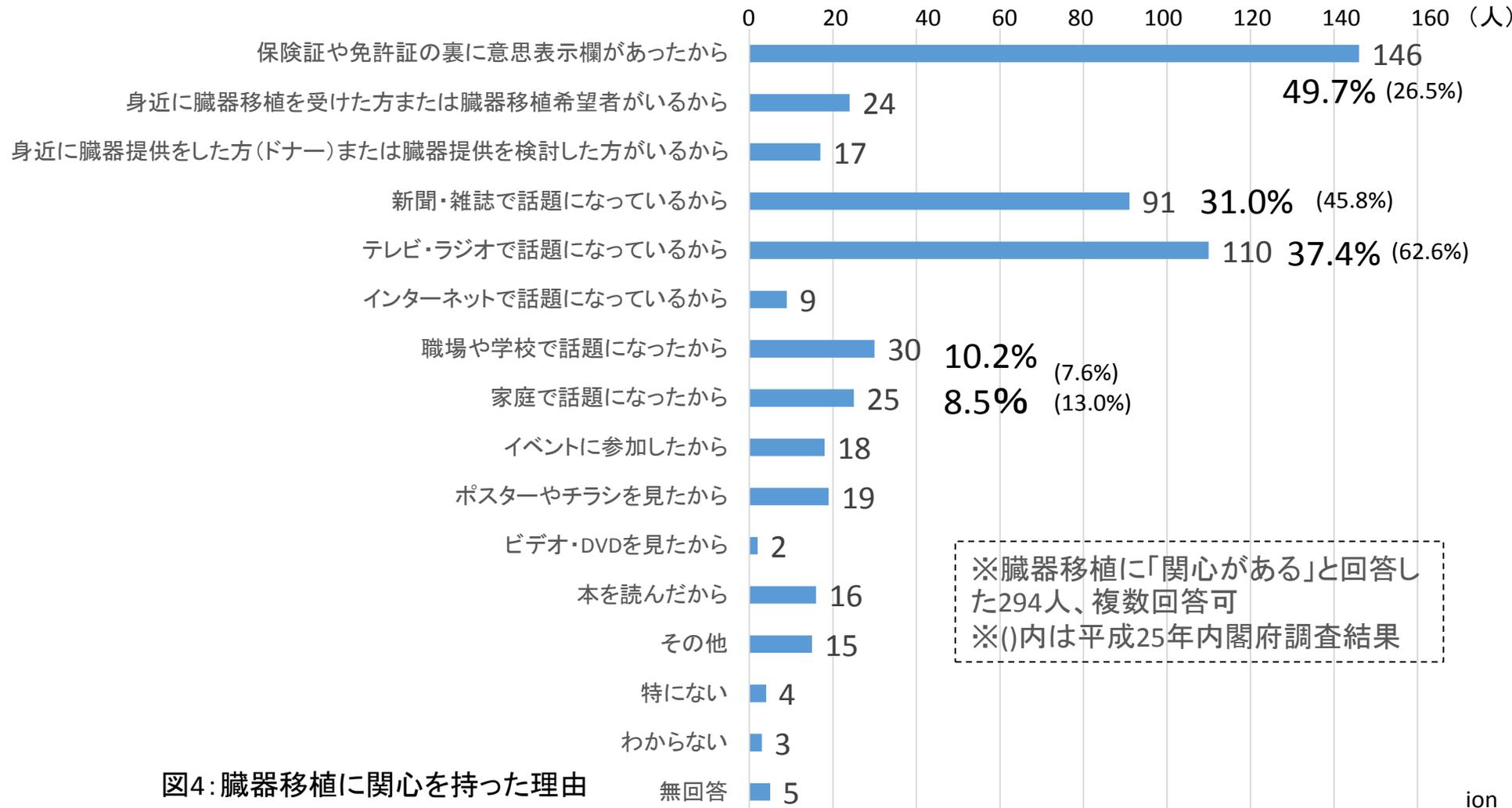


図4: 臓器移植に関心を持った理由

意思表示カードの所持状況

本質問に回答した351人のうち、何らかの意思表示カードを所持している人は152人(40.9%)
所持していない人は199人(53.6%)であった。

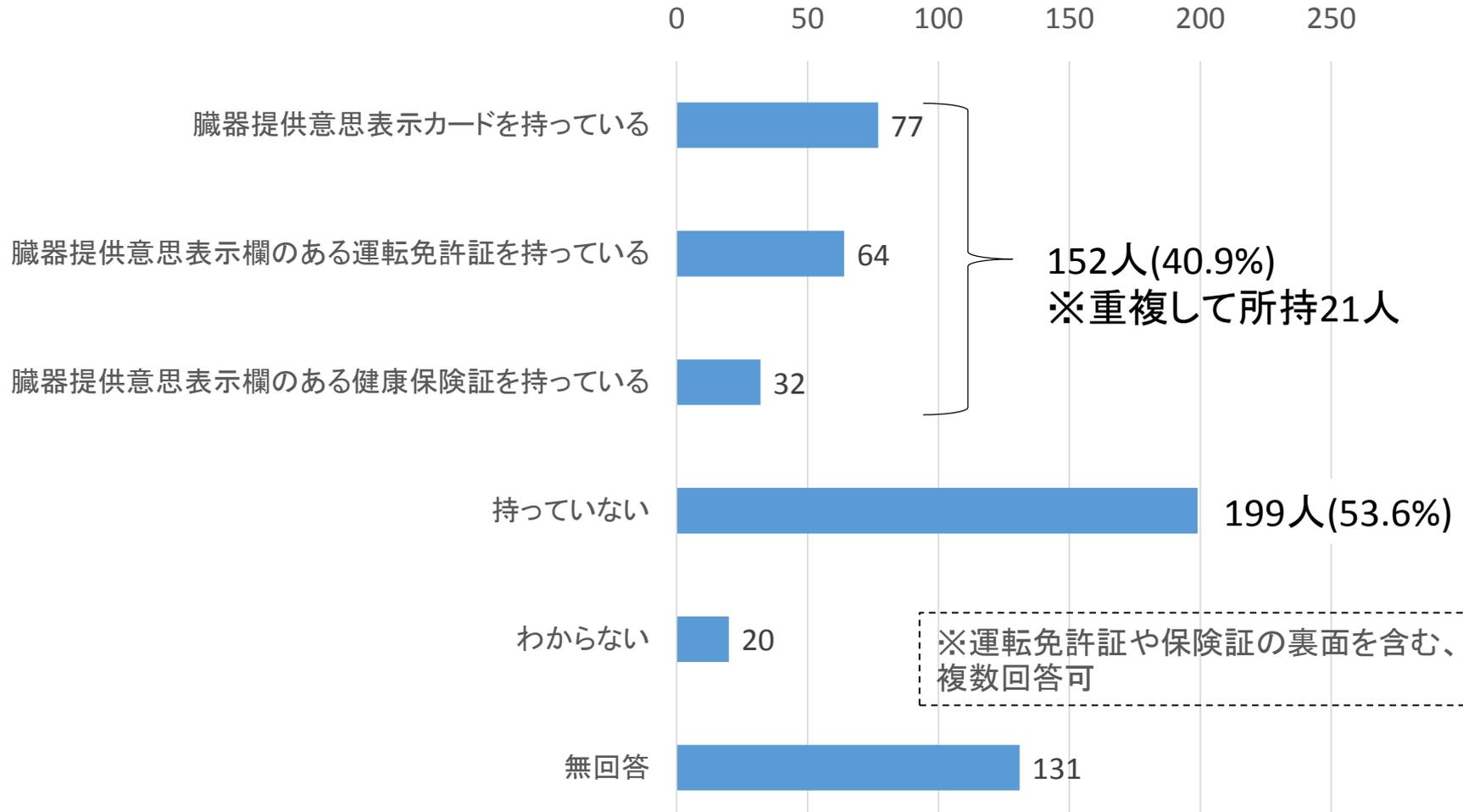


図5: 意思表示カードの所持状況

参考: 平成20年内閣府調査では所持していない人は91.2%、平成23年茨城県調査では83.6%、平成22年岡山県調査では74.5%であった。

意思表示カードの記入状況

意思表示カードへの記入状況は、「既に意思表示をしている」人が90人(18%)であり、カードを所持している人の59.2%であった。

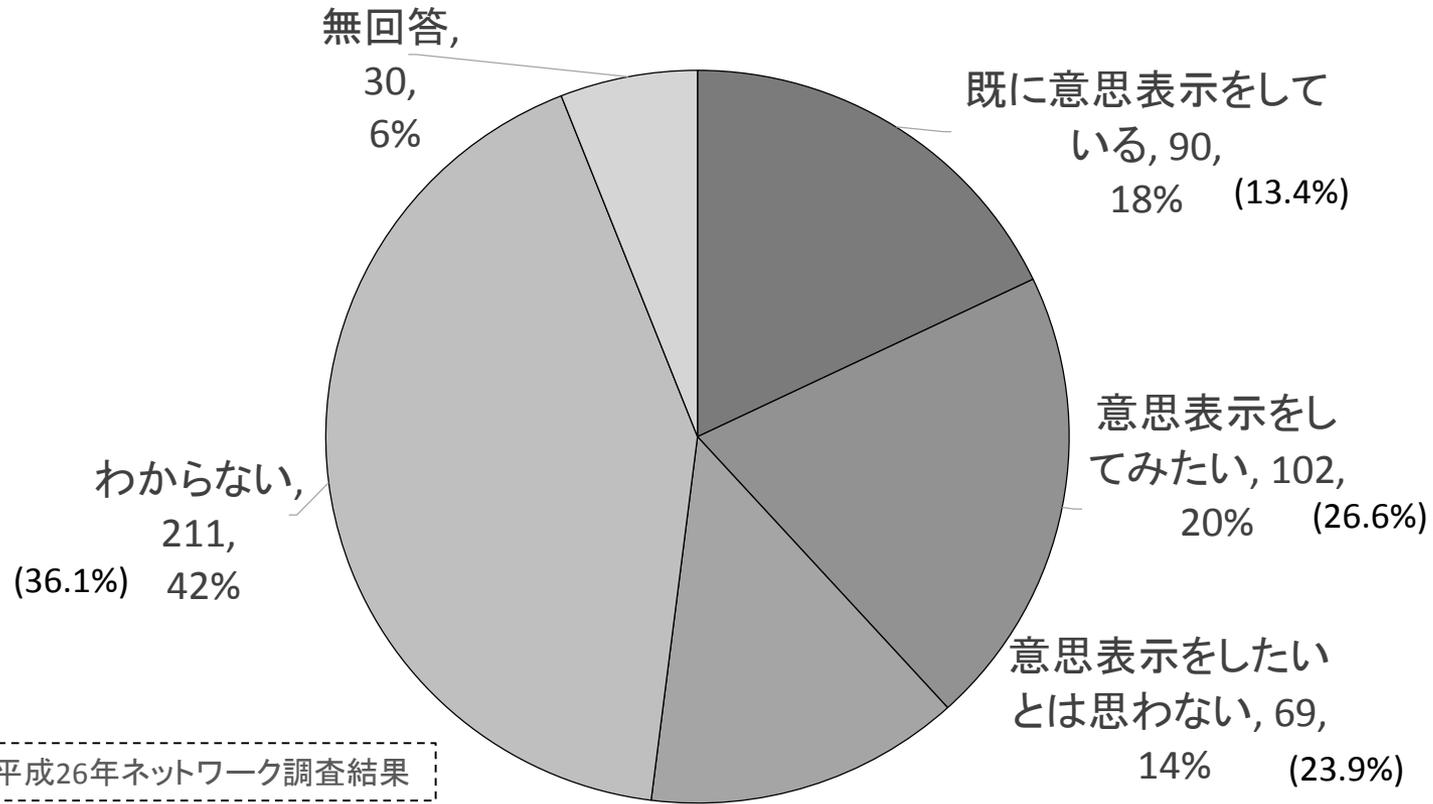


図6: 意思表示カードの記入状況

参考: 平成25年内閣府調査では記入している人は12.6%、平成26年ネットワーク調査では13.4%であった。平成23年茨城県調査では6.9%、平成22年岡山県調査では14.6%と読取れた。

意思表示カードの理解度

臓器提供意思表示カードには「臓器を提供しない意思も表示できることを知っていますか」という質問に、「知っている」と回答した人は358人(71%)であった。

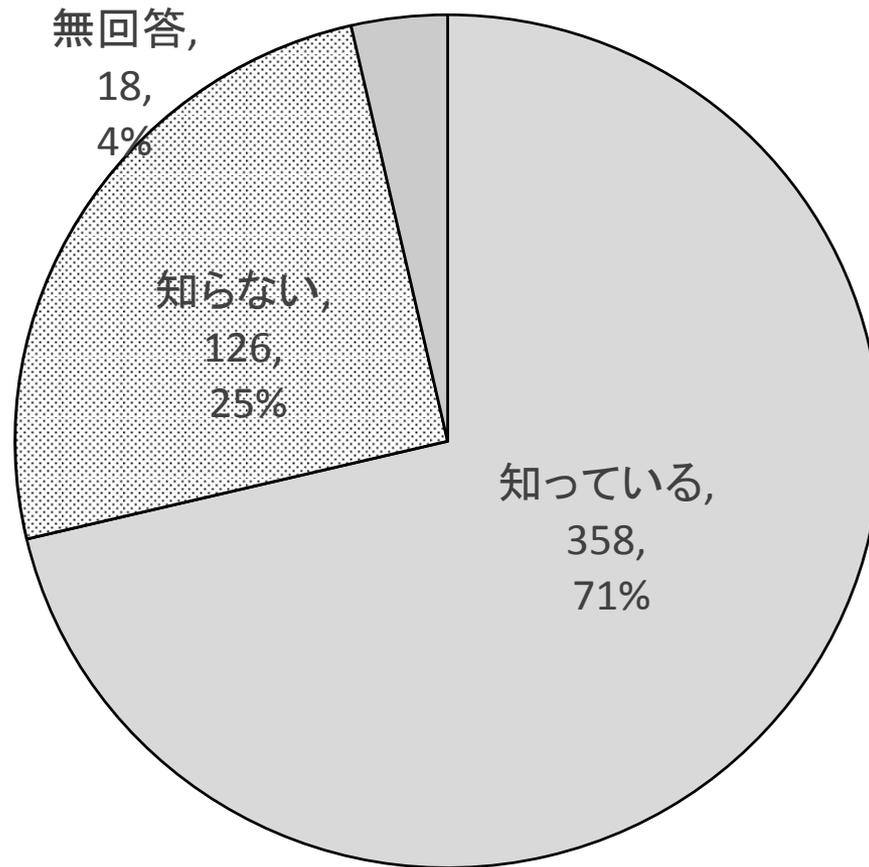
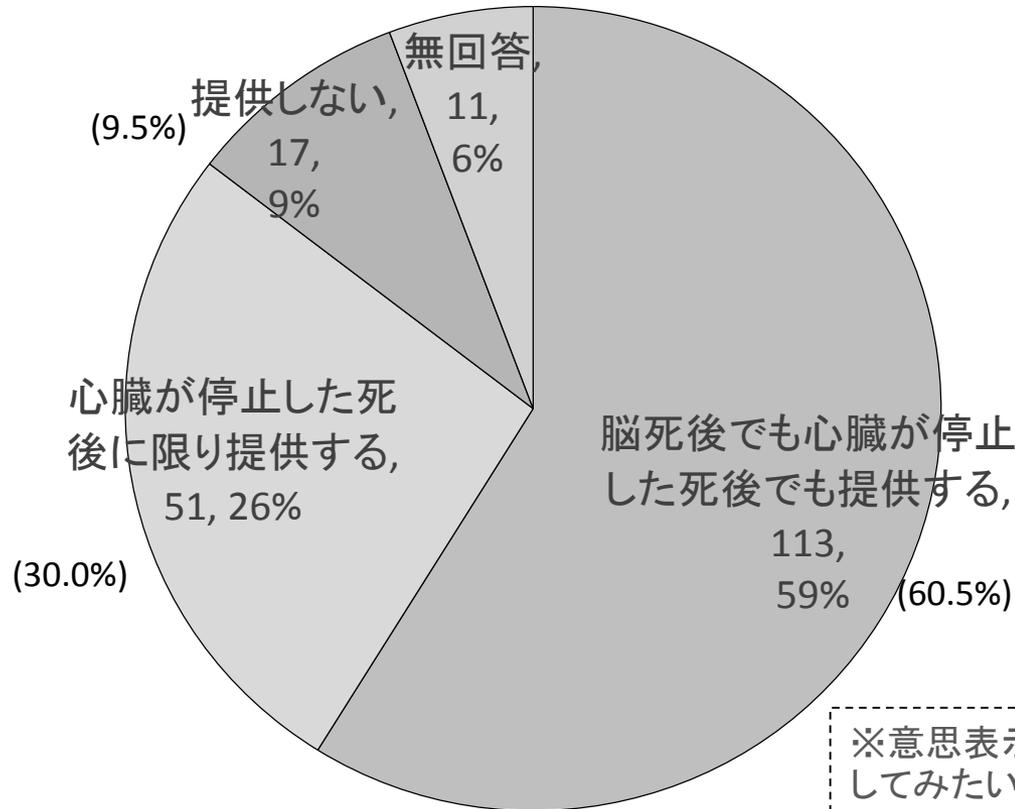


図6: 意思表示カードの理解度

臓器提供に対する考え

意思表示カードに「記入している」「記入してみたい」と回答した人は、臓器提供について「脳死後でも心臓停止後でも提供する」という人が113人(59%)であった。



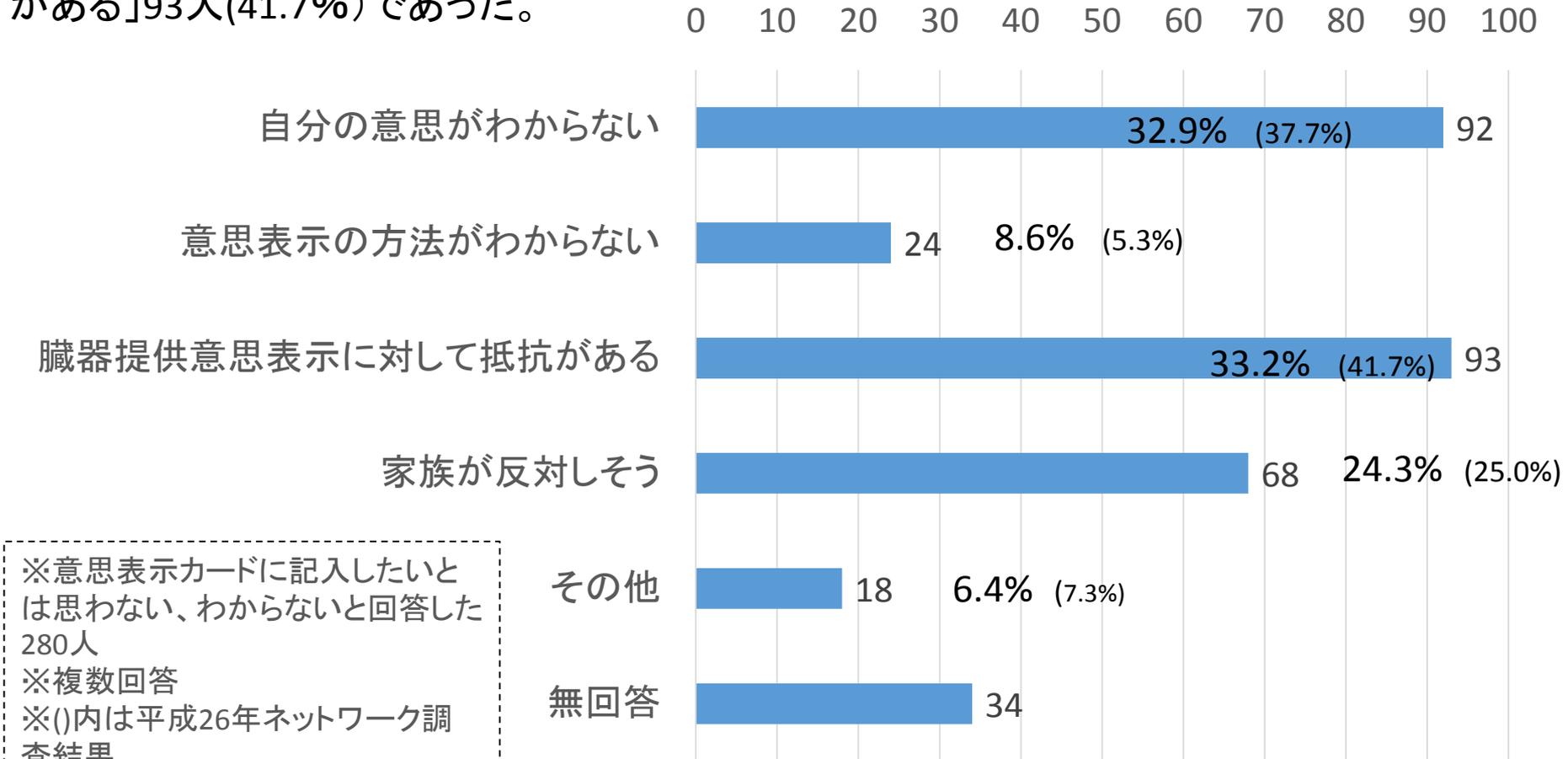
※意思表示カードに記入している、記入してみたいと回答した192人
 ※()内は平成26年ネットワーク調査結果

図7: 臓器提供に対する考え

参考: 平成26年ネットワーク調査では同様の質問に60.5%が回答した。

意思表示をしていない理由

意思表示カードに「記入したいと思わない」「わからない」と回答した人は、記入しない理由について「自分の意思がわからない」という人が92人(32.9%)、「臓器提供意思表示に抵抗がある」93人(41.7%)であった。



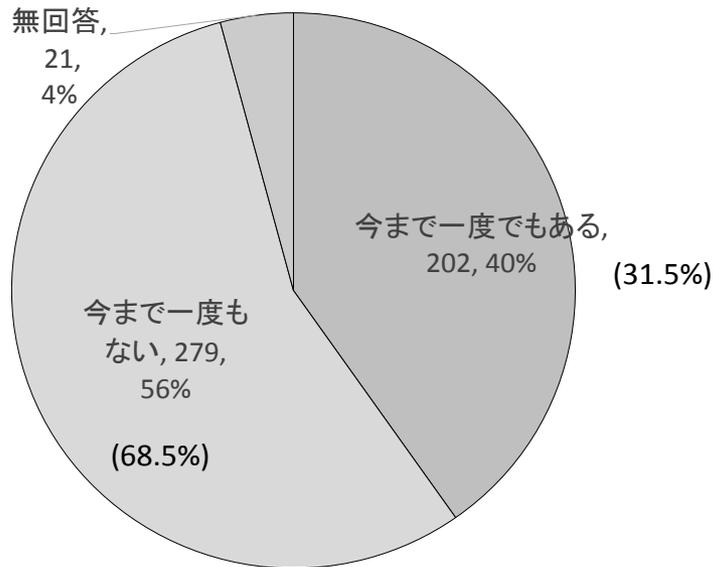
※意思表示カードに記入したいと思わない、わからないと回答した280人
 ※複数回答
 ※()内は平成26年ネットワーク調査結果

図8: 意思表示をしていない理由

参考: 平成26年ネットワーク調査では同様の質問に37.7%、41.7%が回答した。

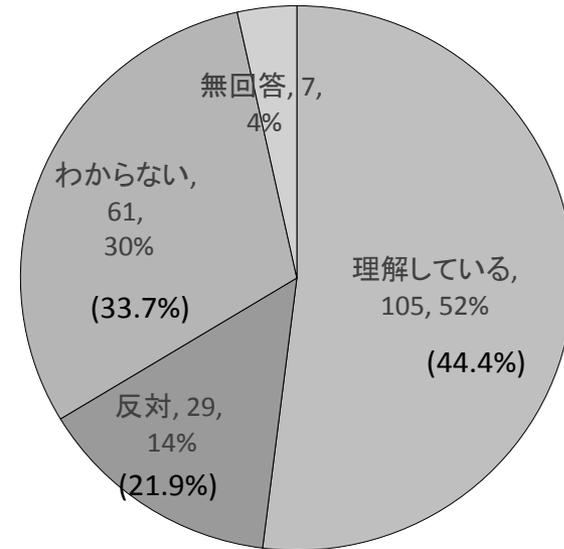
家族との話し合いの有無

臓器提供について「今まで一度でも家族と話し合ったことがある」人は、202人(40%)であった。また、30歳代以下が今まで一度もないと回答した割合が高かった。今まで一度でも話し合ったことがあると回答した人のうち、「家族が臓器提供について理解している」人は105人(52%)であった。



※()内は平成26年ネットワーク調査結果

図9: 家族との話し合いの有無



※今まで一度でもあると回答した202人
※()内は平成26年ネットワーク調査結果

図10: 家族の意見

参考: 平成26年ネットワーク調査では31.5%が今まで一度でも家族と話したことがあると回答しが。また、家族が理解しているという回答は44.4%であった。

臓器移植に関する情報量への認知

臓器移植医療に関する情報を十分に得ているかという質問に対し、「あまりそう思わない」236人(47%)、「そう思わない」80人(16%)であった。

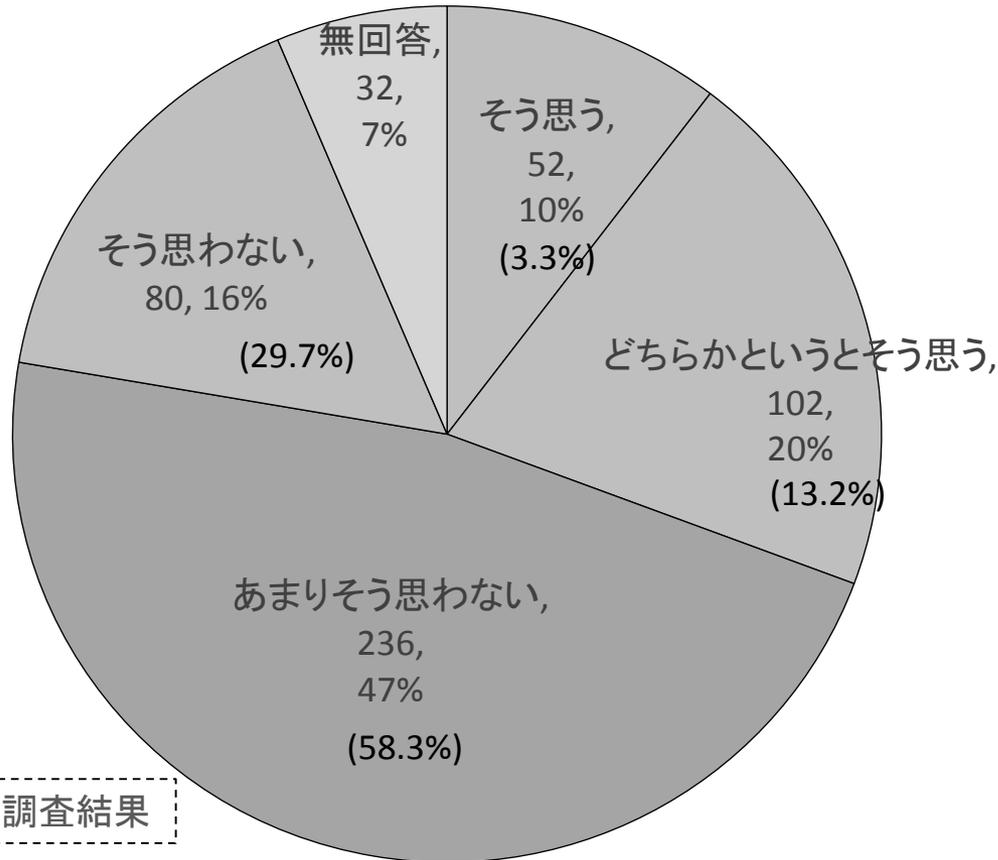
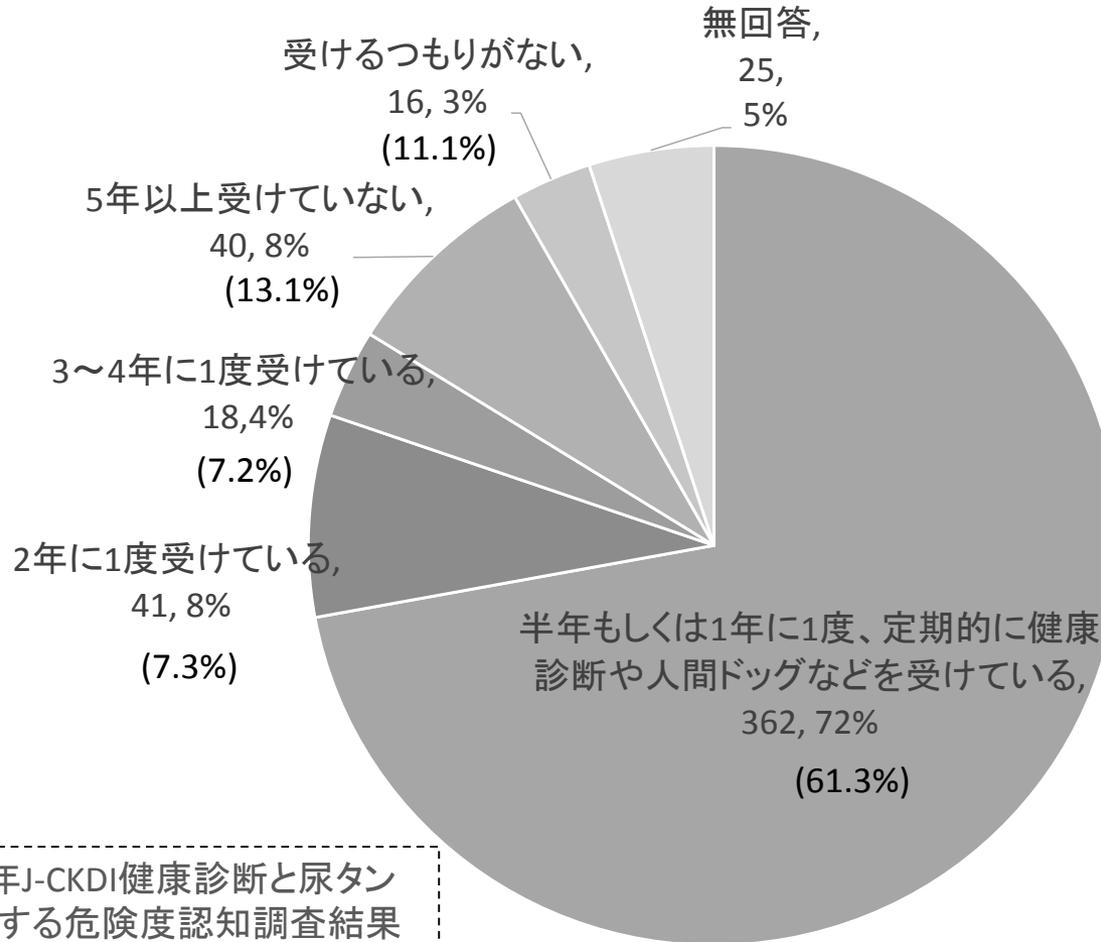


図11: 臓器移植に関する情報量への認知

参考: 平成26年ネットワーク調査ではそれぞれ58.3%、29.7%が同様の回答であった。

健康診断の受診状況

半年もしくは1年に1度、定期定期的に健診や人間ドッグを受けている人は、362人(72%)であった。



※()内は2007年J-CKDI健康診断と尿タンパク・CKDに関する危険度認知調査結果

図12: 健康診断の受診状況

参考: 2007年J-CKDI健康診断と尿タンパク・CKDに関する危険度認知調査(N=1000)では、61.3%であった。

慢性腎臓病の認知度

尿タンパクは治療や再検査が必要であることを知っているかという質問に対し316人(63%)が知っていると回答した。慢性腎臓病については301人(60%)が知っていると回答した。慢性腎臓病が悪化すると腎不全や透析が必要になることを知っている人は307人(61%)であった。30歳代以下は知らないと回答した割合、40歳代以上は知っていると回答した割合が高かった。

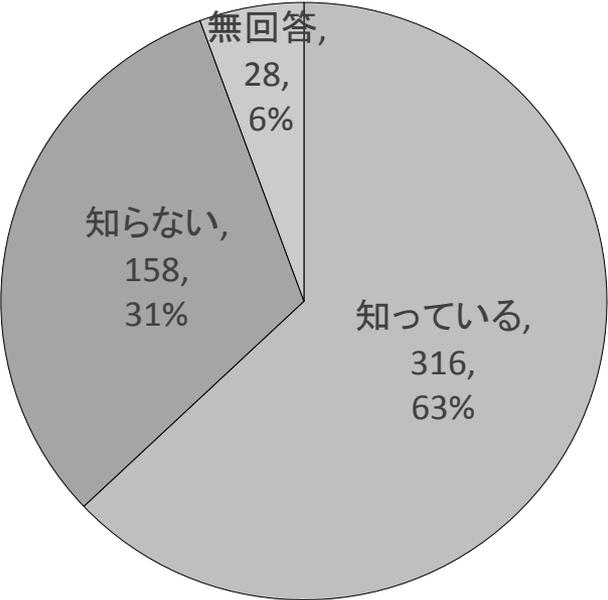


図13:尿タンパクは治療や再検査が必要であるこの認知

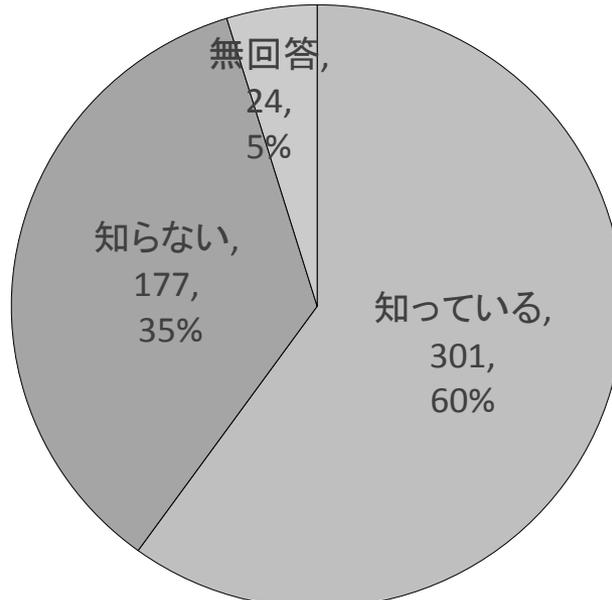


図14:慢性腎臓病の認知

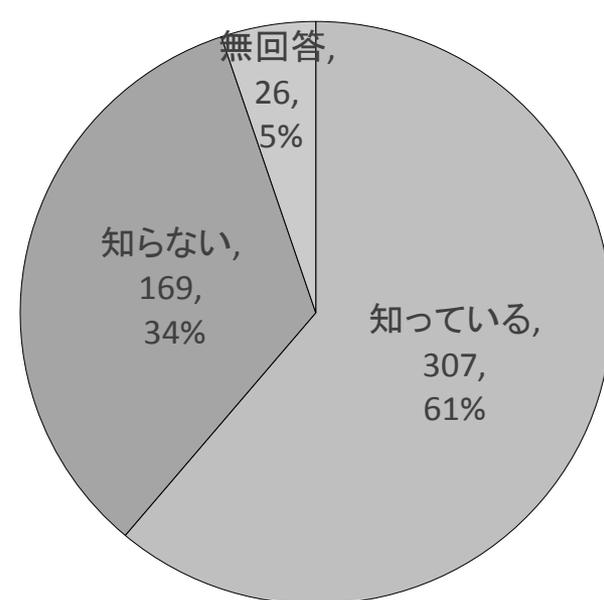


図15:慢性腎臓病悪化は腎不全や透析を招くことの認知

参考:2012年3月自治医科大学内科学講座CKD啓発動画研究会が横浜と宇都宮でそれぞれ300人前後に行った街頭調査では、「CKD」という言葉の単純認知度は4%であった。2014年宇都宮市が実施した調査(n=413)では、CKD(慢性腎臓病)の言葉も意味も知っている人は22%、言葉だけ知っている人は23.7%、知らない人は53.3%であった。

慢性腎臓病罹患者の状況

慢性腎臓病に罹患している人は32人(7%)、家族に罹患者がいる人は26人(5%)であった。

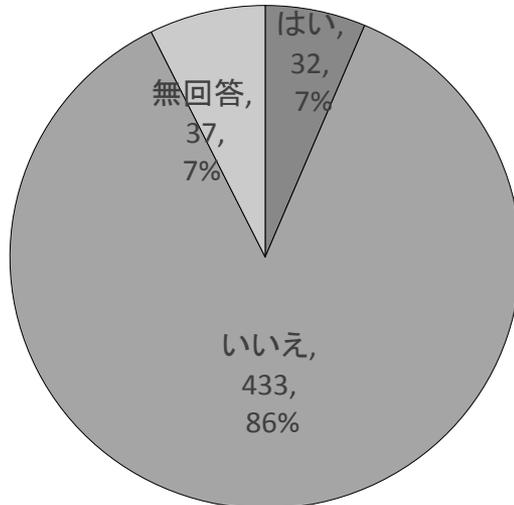


図16: 慢性腎臓病の罹患状況

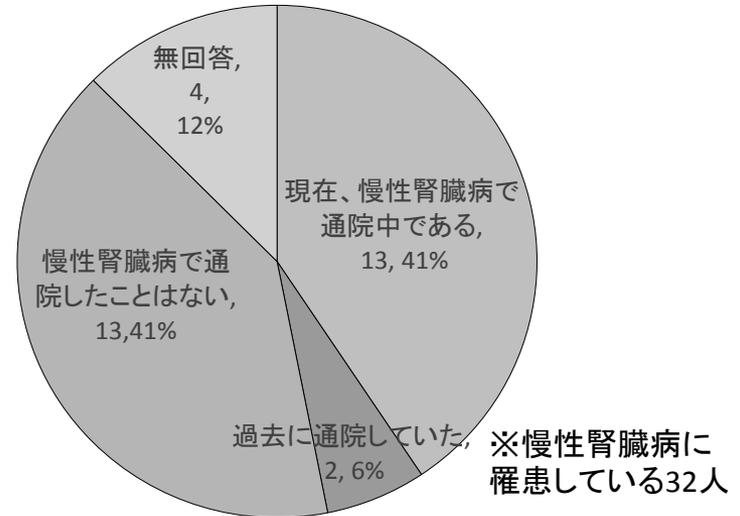
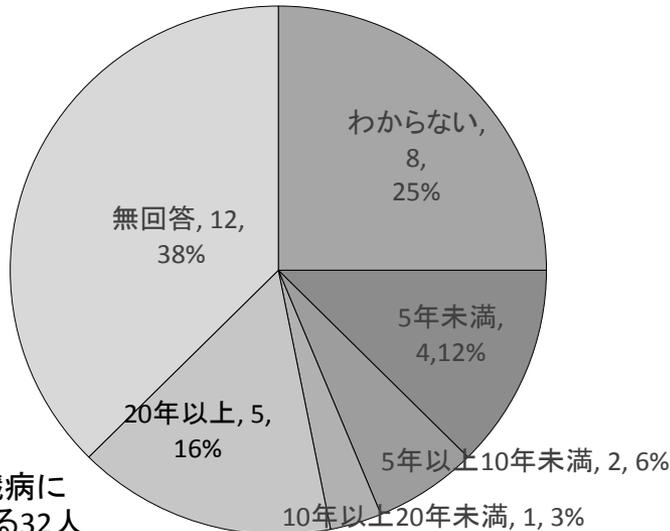


図17: 現在の慢性腎臓病の状況



※慢性腎臓病に罹患している32人

図18: 慢性腎臓病の病歴

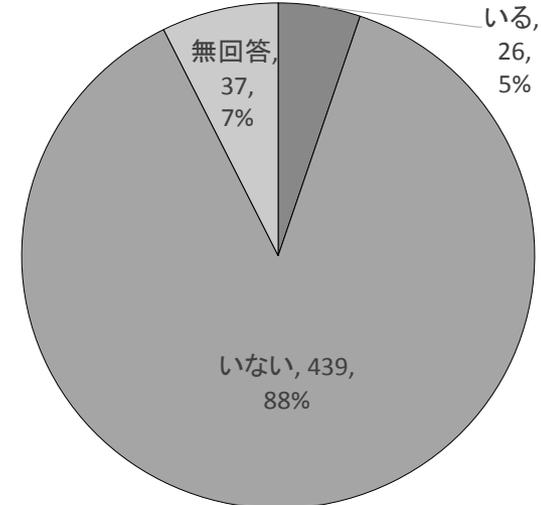


図19: 家族の罹患状況

慢性腎臓病や予防法の情報への要求



慢性腎臓病やその予防法についての情報を得たいと思うかの質問に対し、382人(76%)が情報を得たいと回答した。

40～50歳代が情報を得たいと回答した割合が高かった。

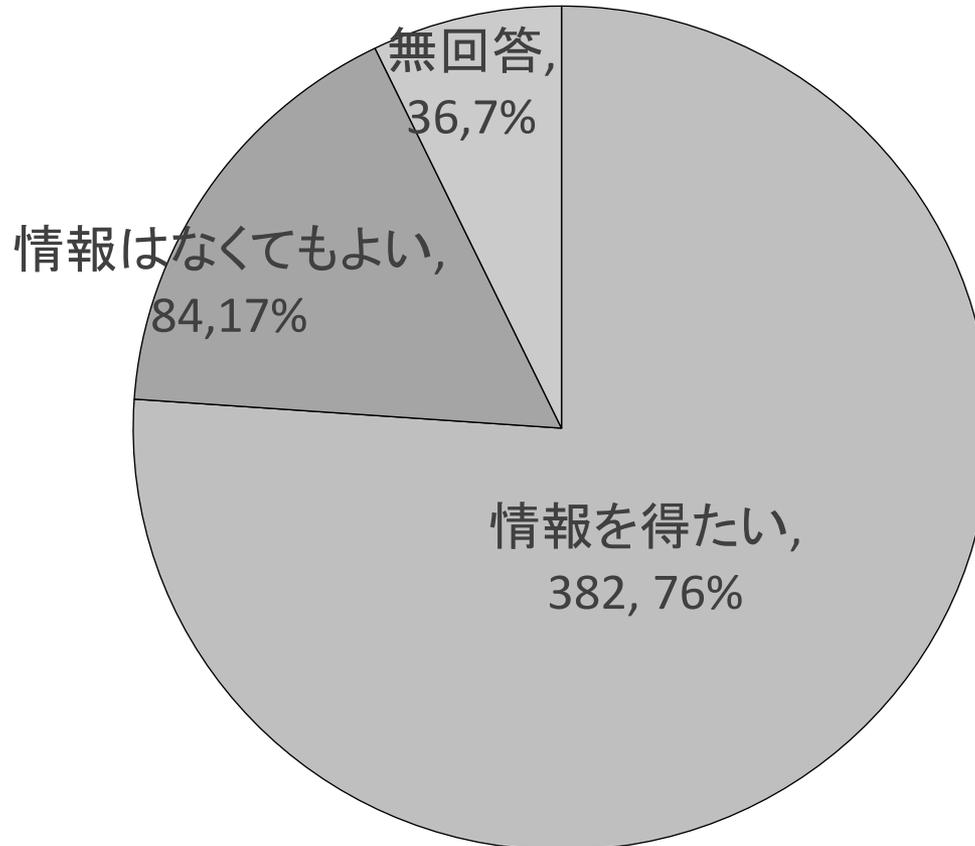


図20:慢性腎臓病や予防法の情報への要求

予防に対する日常生活での意識

慢性腎臓病や生活習慣病予防のために日常生活で意識していることの質問に対し、240人(47.6%)が減塩に気をつけている、274人(54.6%)が野菜を摂るようにしていると回答した。減塩、脂質、身体活動は、60歳代以上が選択した割合が高く、30歳代以下が低かった。

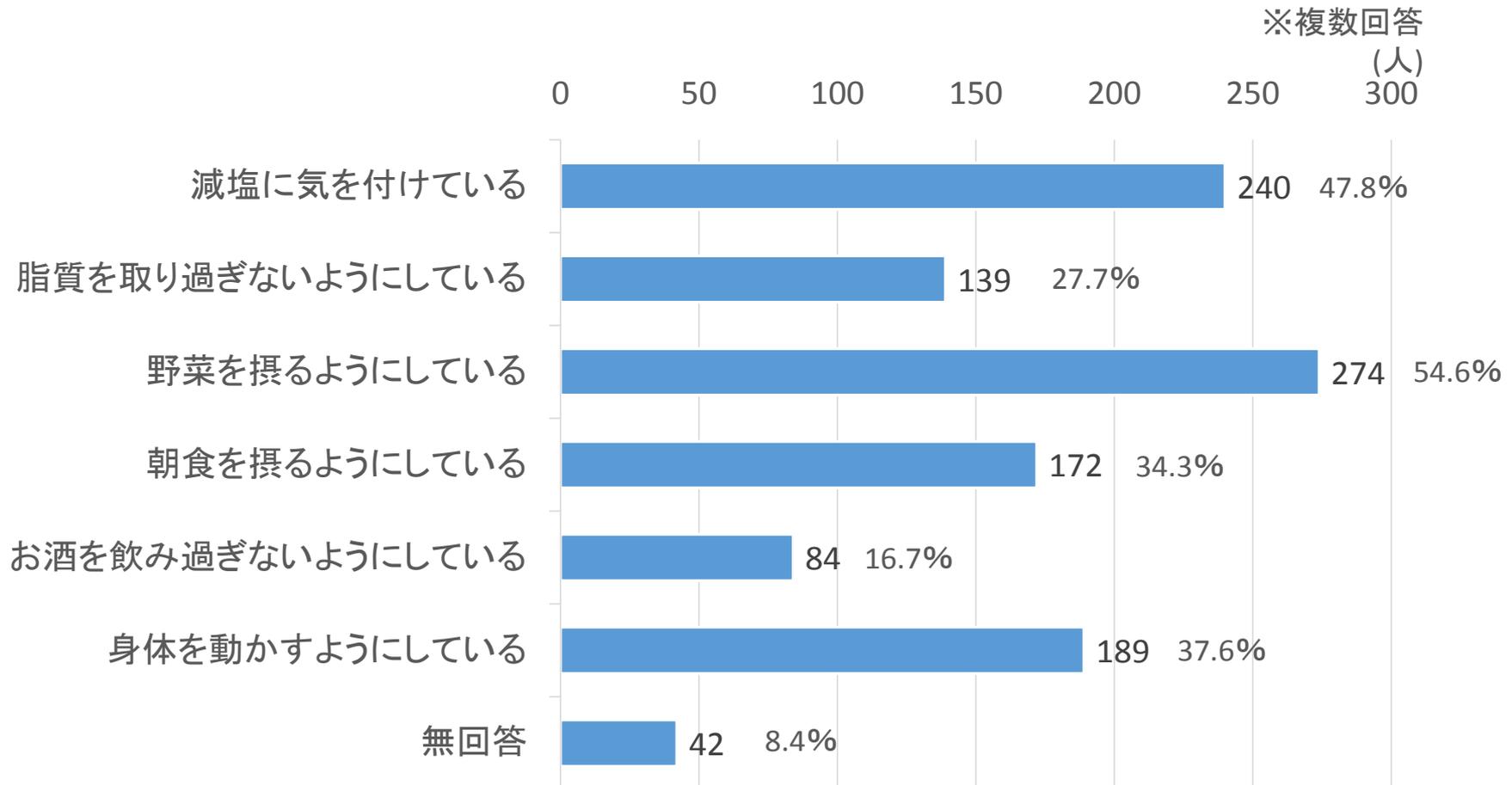


図21: 予防に対する日常生活での意識

まとめ



臓器移植に関する意識

- ・臓器移植に関心がある人は58%(H25内閣府57.8%)
- ・40.9%が臓器提供意思表示カードを所持している(H20内閣府8.8%)
- ・そのうち意思を記入している人は18%(H26ネットワーク調査13.4%、H25内閣府12.6%)
- ・家族との話し合いをしたことがある人は40%(H26ネットワーク調査31.5%)

臓器移植への関心が高い人は

- ・60歳代以上
- ・意思表示をしている
- ・家族と話し合ったことがある
- ・移植に関する情報を十分に得ていると認知している
- ・慢性腎臓病の認知度も高い
- ・健診を1年に1回以上受診している